
2024 年度活動報告書

准教授 ホアン・カストロ

学内での活動

授業

- ・メディア表現基礎 2 とメディア表現基礎 3 ではアートと科学、そして社会の関係をテーマに実施した。特に、現在アーティストが生物学や合成生物学、宇宙科学といった分野の新しい科学技術を使って、どのように制作をしているか、講義と学生相互のディスカッションを行った。
- ・総合学 2 ではアートと生命科学、そして技術の関係について深い理解と、創造を促した。
- ・メディア表現特論 C では、バイオテクノロジーとアート、生命らしい技術の深い理解を促す授業をした。
- ・特別研究では、主指導教員として M2 学生の制作活動の指導を行った。M1、M2 学生の研究や制作活動について面談と指導を行った。

論文

- ・「FORMATA」
2024 年 7 月にロスアンデス大学、人文芸術学部美術史学科のジャーナル、KOBAL 誌に論文「FORMATA」を掲載。

個人研究

- ・「プロトエイリアン・プロジェクト」
久保田晃弘（多摩美術大学教授）、豊田太郎（東京大学准教授）と共に宇宙生物学とメディアアートに関する共同研究「プロトエイリアン・プロジェクト」（2019～）を継続して行っている。
- ・「Extreme Biologies」
プロジェクト研究「Extreme Biologies」では、生物学とメディアアートに関するテーマについて、微生物の観察と実験を行い研究活動を行った。

委員会

- ・ 交換留学制度と海外交流 WG を担当し、企画・運営をしていた。広報委員会、入試実施委員会、ハラスメント相談員のメンバーをつとめた。

学外での活動

メディア掲載

・2024年6月17日に、中日新聞の＜Meet STEAM＞でバイオアートについて取材を受けて誌面で紹介された。

・2024年12月22日に、日経新聞の＜The Style＞でアートとサイエンスについて取材を受けて誌面で紹介された。

賞

・2024年9月、Ars Electronica Festival（オーストリア・リンツ）にて、プロトエイリアン・プロジェクトの研究成果である作品「FORMATA（2020-2022）」が、S+T+ARTS 賞にノミネートされた。

掲載

・Marcelo Velasco, Ignacio Nieto による"The Art & Science Symbiosis" の本においてアートと科学についてインタビューを受け、取材内容が掲載された。